

皆川城跡(栃木市)

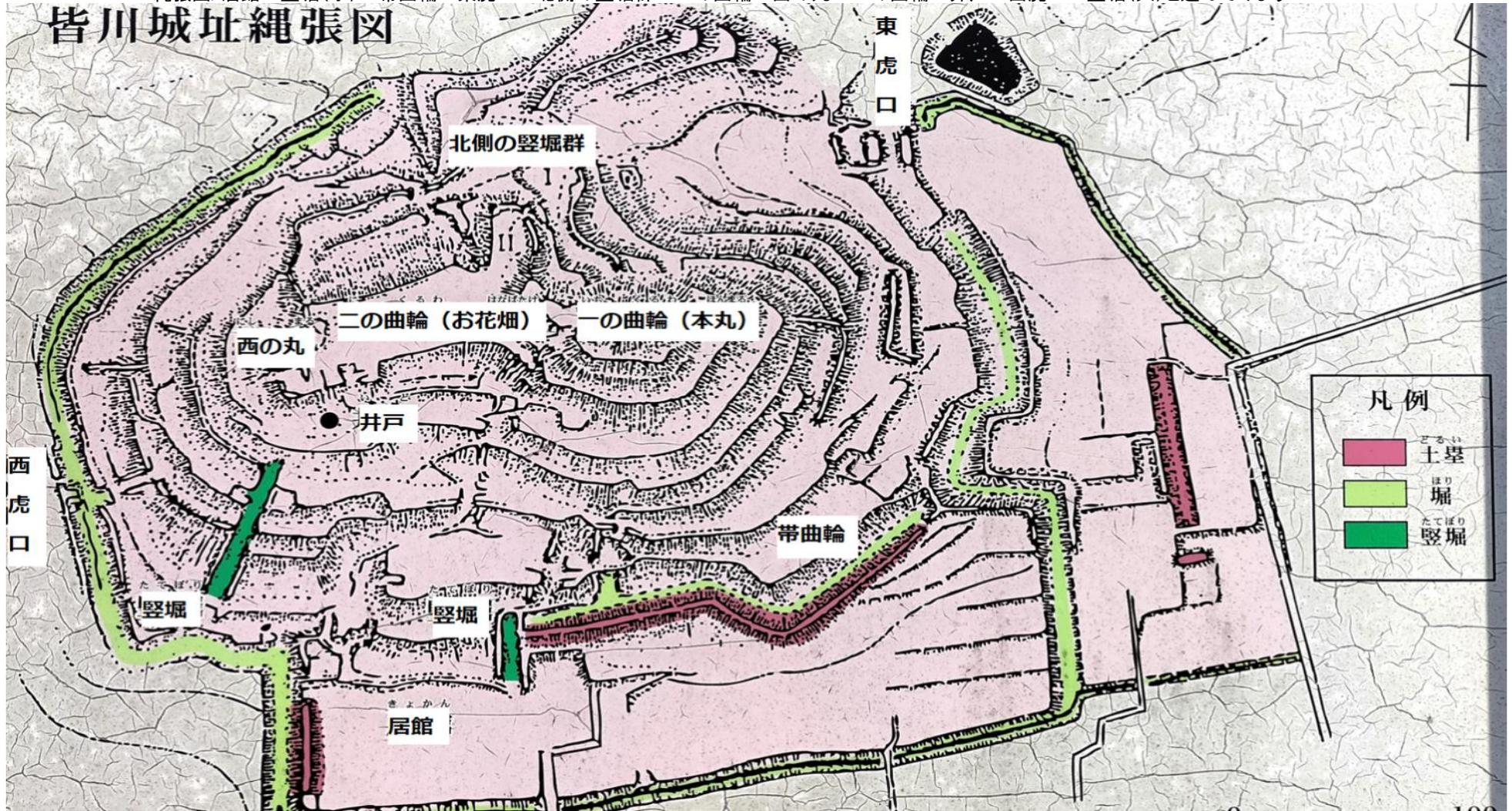
南西側から見た皆川城跡/城山全体が階段状になっているのが見て取れる/皆川城址公園として整備されている

[video](#)



縄張図/居館～豎堀(小)～帯曲輪～東虎口～北側の豎堀群～二の曲輪～西の丸～一の曲輪～井戸～西虎口～豎堀(大)と進んでみよう！

皆川城址縄張図



皆川城址（市指定史跡）

皆川城址は、標高一四七mの城山を中心とする山城である。山頂に主郭があり、標高差を利用した階段状の連続した曲輪が分布する。地元では、その外観から、法螺貝城とも呼ばれる。

南、南西には山腹から麓まで長大な豎堀を配し、北側に三重の豎堀がある。北側を除き、山麓端に横堀を巡らせ、南は麓を含めた平地部を方形に囲う。主郭には曲輪南・西側、北西部の土塁と、数基の柱穴跡が発掘調査で確認され、その規模や配置から、簡易な建物があったと推定されている。

築城年代は不明である。慶長十四年

（一六〇九）徳川幕府による改易で廃城したと考えられる。

周囲には、字鳥居戸、字町家、字宿等の地名があり、東側には東宮神社や鎌倉期の居館と伝えられる白山台が位置し、東西には皆川街道が通る。これらを含む一帯が城と城下町を形成したと推測される。

一説には築城年代：永享元年（1429年）、築城者：皆川秀宗とされる/階段状の連続した平地（曲輪）が分布することから、別名、法螺貝城とも呼ばれる

皆川城跡に近づいて、南から見たところ/前方の白い建物は皆川地区公民館

 video



この皆川地区公民館の建っているエリアは居館跡という

[video](#)



左手(西方向)を見ると土塁が残っている

 video



その居館を取り巻く土塁の上に登って南方向を見たところ/右手には空堀跡のような雰囲気があった

[video](#)



さて、ここから園路に従いながら登って行こう/正面いきなり豎堀(小)が見える

[video](#)



これが豎堀(小)

[video](#)



左上から見たところ



上から見たところ

 video

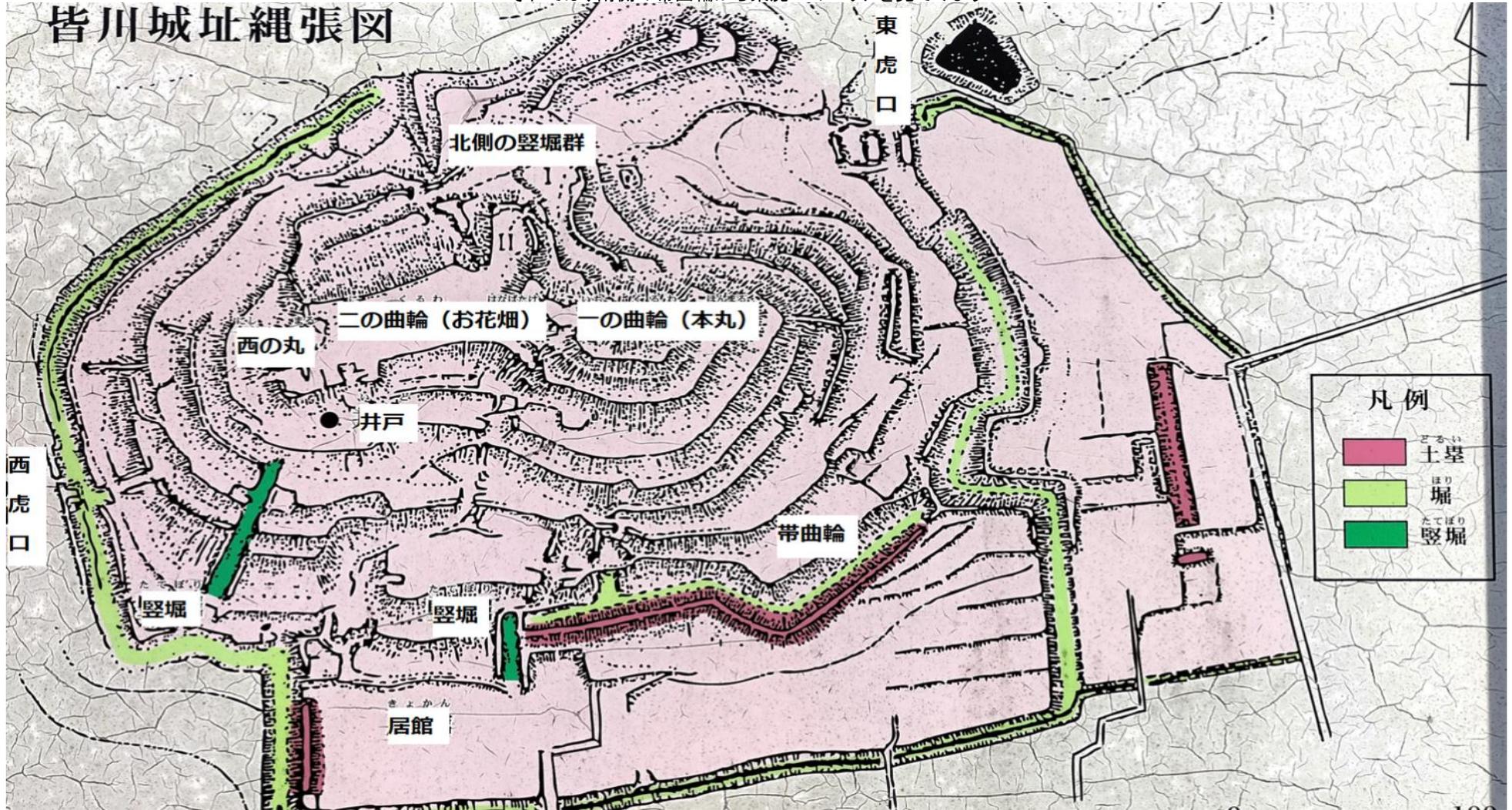


その付近にこんな小祠もあった

[video](#)



それでは、南側の帯曲輪から東虎口のエリアを見てみよう



これは豎堀(小)の上部の平場から上方を見上げたところ/正面の上部がニの曲輪/右上の展望台が見える所が一の曲輪

[video](#)



ここは上記の平場から東方向に進んだ所で、この辺りからが帯曲輪

 video



その辺りで左上を見上げると、豎堀状の地形があった

[video](#)



帶曲輪

 video



右下には横掘(空堀)が見える



左手を見たところ

 video



右手を見たところ

[video](#)



更に進むと、この辺りが一番広い平場となっている

 video



そこで、右下の横堀を見たところ

[video](#)



更に進むと大きな土塁があり、その右手に横堀を渡る土橋があった

[video](#)



これが横堀を渡る土橋

[video](#)



土橋を渡って、土塁上で西方向を見たところ/右下が横堀

 video



土橋を土塁から上方の帯曲輪方向に見たところ

[video](#)



土塁上で東方向を見たところ/左下が横堀

[video](#)



これは横堀底に下りて、西方向を見たところ



振り返って、土橋を見上げたところ

[video](#)



帯曲輪を更に東方向に進むと、北方向に回り込んでいる

 video

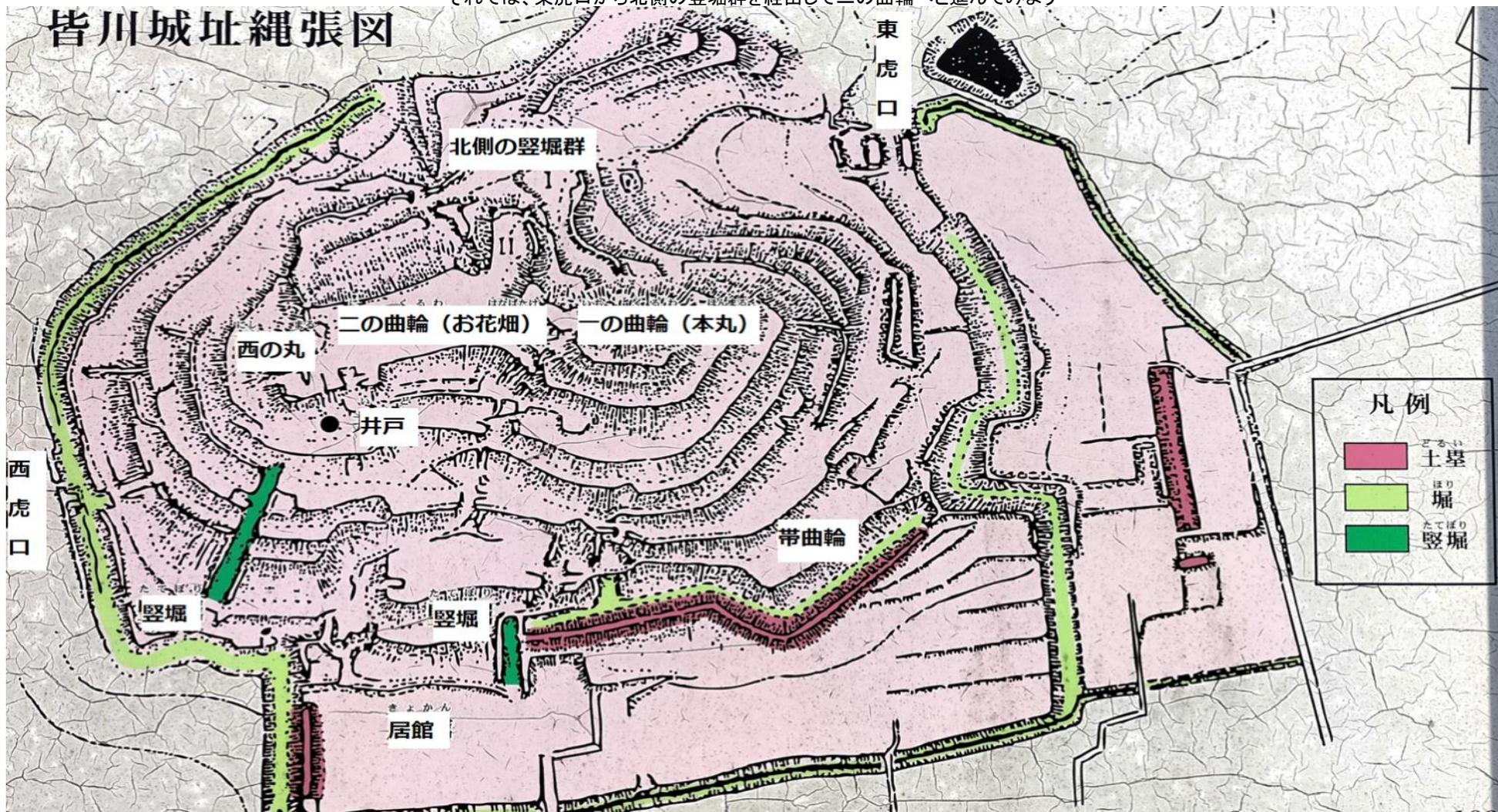


これはその付近の左上の曲輪/右下が帯曲輪で、その上部であるこの平地には土塁があるのが見て取れる

 video



それでは、東虎口から北側の豎堀群を經由して二の曲輪へと進んでみよう



この辺りが東虎口

 video



ここから北側の豎堀群のエリアに登って行く

 video



ここが三重の竖堀群

 video



ここは二の曲輪への虎口と思われる/右手のマウンドはここを見張るために好都合の場所になっているようだ

[video](#)



そこで、右手を見たところ/こちらへ下りて行くと西虎口方向となるようだ/左手は上記のマウンド

[video](#)



マウンドの反対側に回り、マウンドの上部を見たところ/右手が虎口

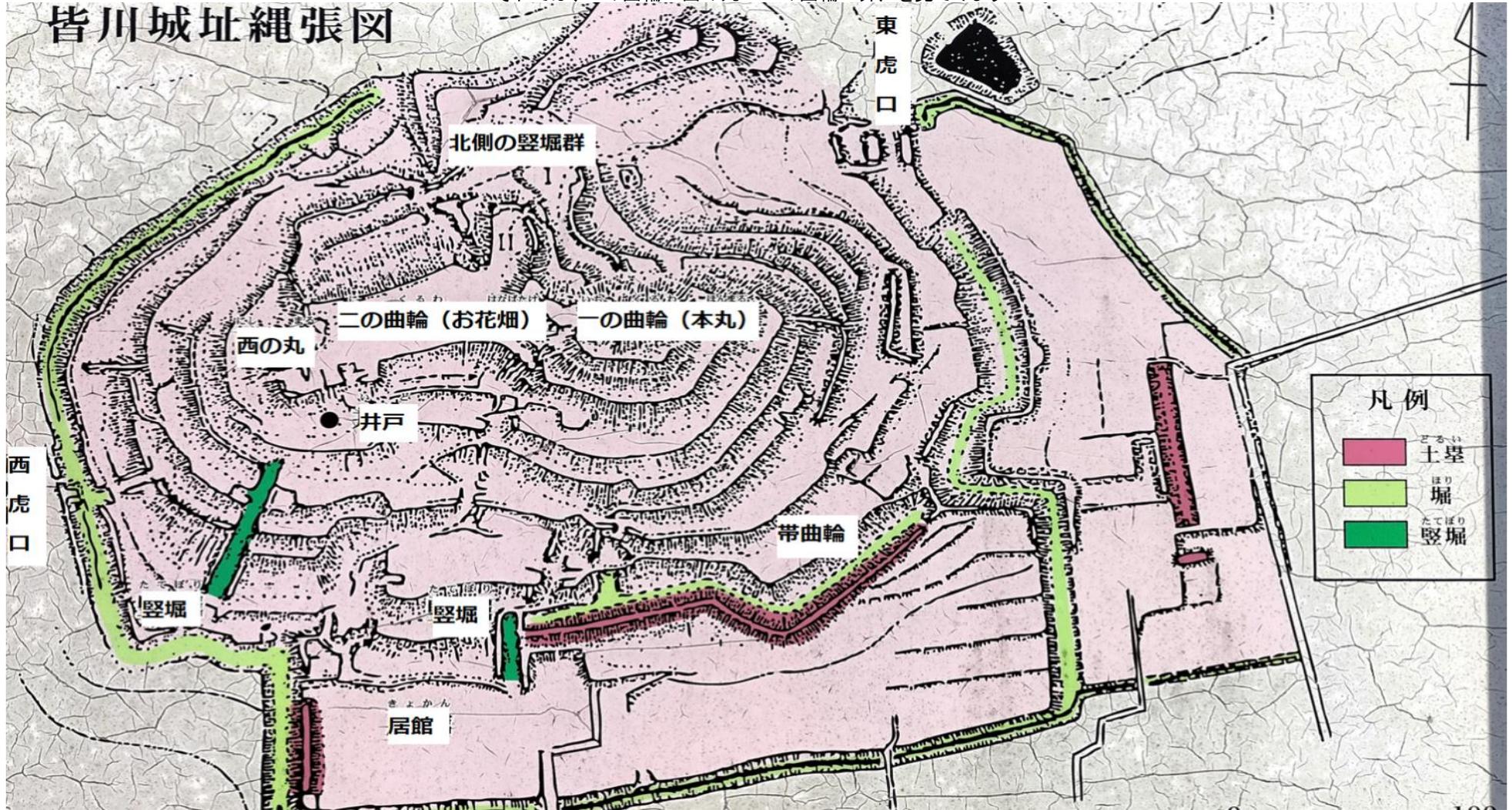
 video



そこで振り返ると、前方に一の曲輪(左手)へ登って行く園路の階段が見える/その右下が二の曲輪



それでは、二の曲輪～西の丸～一の曲輪～井戸を見てみよう



ここが一の曲輪(左手)へ登って行く園路の階段/右下が二の曲輪

[video](#)



前方が右下の二の曲輪



そこで右手を見ると、西虎口方向に下って行く道がある



こんな塩梅/後程、行ってみよう

 video



二の曲輪/前方に一の曲輪に建つ展望台が見える

[video](#)



そこで振り返ると、小さな標柱が立っている



このマウンドが西の丸



右手から西の丸に登ってみる

[video](#)



一の曲輪に建つ展望台が見える



反対側(西側)はこのような急峻な斜面となっている

[video](#)



さて、ここから一の曲輪へ登って行く/左上に展望台の屋根が見える

[video](#)



右下には二の曲輪が見える

 video



少し登って行くと、両サイドに腰曲輪のような平場があった

 [video](#)



ここが一の曲輪/展望台の手前に説明板が立っている

 video



「皆川城址」と刻まれた標柱もあった



展望台から見た栃木市街方向

 video



こちらは二の曲輪の南下の平場

[video](#)



その左手に井戸跡がある

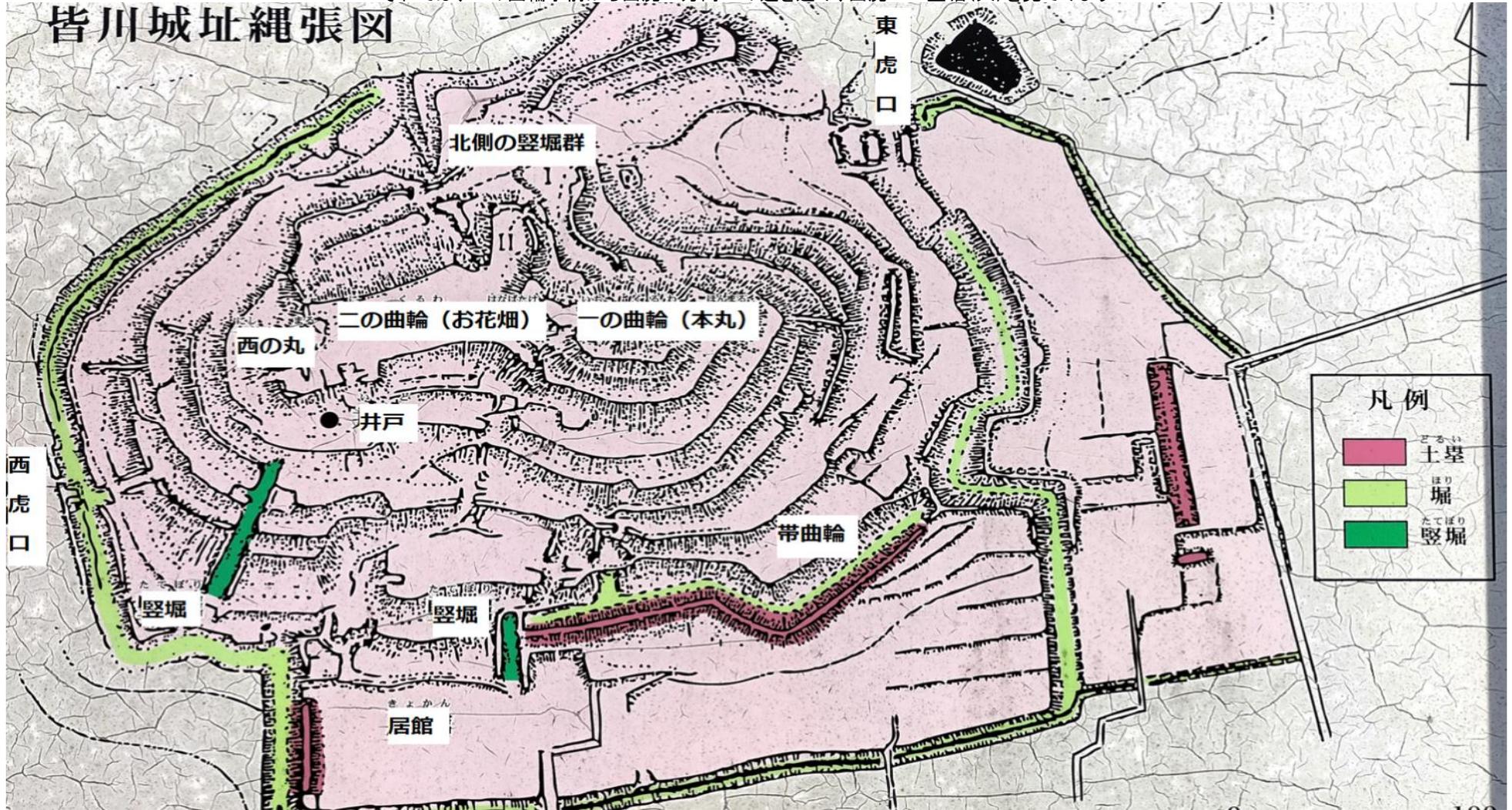
 video



こんな山の上であるが、今でも水が溜まっている/貴重な飲み水であったのであろう



それでは、二の曲輪手前から西虎口方向への道を進み、西虎口～豎堀(大)を見てみよう



ここが二の曲輪手前から北側斜面を反時計回りに回り込んで西虎口へと続く道

[video](#)



北側斜面下には横堀状の地形が続いている

[video](#)



その先の道の際には土塁のようなマウンドが続いている

 video



ここが西虎口

[video](#)



西の虎口（にしのこぐち）

虎口は、小口とも書き、城の出入口や各郭の出入口を指すものです。形は、名前のとおり、門のような崖や土塁で挟まれ狭くなっています。敵の進入を困難にし、集中する敵を周囲の土塁の上から容易に攻撃できるような工夫がされています。

西虎口を登り切った所は横堀になっている/この左手前から西の丸の付近に登るルートの入口が西虎口

[video](#)



そこで振り返って、西虎口を見たところ

 video



横掘を東方向に進んで、振り返って見たところ

[video](#)



こちらは豎堀(大)/下から見上げたところ/説明板があった

[video](#)



豎堀 (たてぼり)

幅^{はば}9 m、深さ^{ふか}4～5 mの空堀^{からぼり}（水^{みず}のない堀^{ほり}）を復元^{ふくげん}したものです。多くの堀^{ほり}は、城^{しろ}の中心^{ちゅうしん}を囲む^{かこむ}ように造^{つく}られますが、豎堀^{たてぼり}は中心^{ちゅうしん}から外^{そと}に向かって造^{つく}られています。これは、攻め込^{せこ}んできた敵^{てき}の左右^{さゆう}の連絡^{れんらく}を断^たつことが目的^{もくてき}です。

竖堀底を登ってみよう/折れがある

 video



ここが豎堀の突き当り

 video



突き当りの上から豎堀を見下ろしたところ/折れがあるのが見て取れる

[video](#)



さて、ここは皆川城跡から南西に400mほど行った所にある金剛寺



皆川氏の菩提寺で、皆川家歴代祖廟が所在する



皆川家歴代祖廟

皆川家歴代祖廟は、皆川氏の菩提寺である。皆川氏は、戦国時代から江戸時代にかけて、この地に繁栄した。皆川家の歴史は、この地に深く根ざしている。皆川家の祖廟は、皆川家の歴史を伝える重要な場所である。皆川家の歴史は、この地に深く根ざしている。皆川家の祖廟は、皆川家の歴史を伝える重要な場所である。



栃木市指定文化財

昭和36年12月21日指定

みな が わ け れ き だ い そ び ょ う

皆川家歴代祖廟

皆川家歴代祖廟は皆川城(別名法螺貝城)を中心として勢力を誇っていた歴代城主の墓地であります。

下野国の名族藤原秀郷を祖とする皆川氏は長沼五代・奥州長沼五代を経て、長沼五郎秀宗の時にこの地に移りその子氏秀に至り皆川姓を名乗り、観音山に皆川城を築きました。その後、たび重なる合戦を経た後、皆川広照の代、豊臣秀吉の小田原城攻めに際し徳川家康のもとに降伏し、江戸時代には旗本として幕府に仕えました。

戦国時代より遺骸は必ず菩提寺である金剛寺に葬られ一代も欠けることなく現在に至り、立ち並ぶ墓碑の型式をみることによって時代差を知ることができるなど価値の高いものであります。

なお、本寺には皆川広照が寄進したと伝えられる皆川広照着用具足(南蛮鎧兜)や広照の長子、隆庸が宝永17年(1640)に先祖の菩提のために寄進した薬師如来像が安置され、いずれも市指定文化財に指定されています。

栃木市教育委員会

譯奉造立歴代先祖之塔廟前者也
正保二之西曆仲春吉辰孝孫隆庸敬白

みな が わ け れ き だ い そ び ょ う

皆川家歴代祖廟

皆川家歴代祖廟は皆川城(別名法螺貝城)を中心として勢力を誇っていた歴代城主の墓地であります。

下野国の名族藤原秀郷を祖とする皆川氏は長沼五代・奥州長沼五代を経て、長沼五郎秀宗の時にこの地に移りその子氏秀に至り皆川姓を名乗り、観音山に皆川城を築きました。その後、たび重なる合戦を経た後、皆川広照の代、豊臣秀吉の小田原城攻めに際し徳川家康のもとに降伏し、江戸時代には旗本として幕府に仕えました。

戦国時代より遺骸は必ず菩提寺である金剛寺に葬られ一代も欠けることなく現在に至り、立ち並ぶ墓碑の型式をみることによって時代差を知ることができるなど価値の高いものであります。

なお、本寺には皆川広照が寄進したと伝えられる皆川広照着用具足(南蛮鎧兜)や広照の長子、隆庸が宝永17年(1640)に先祖の菩提のために寄進した薬師如来像が安置され、いずれも市指定文化財に指定されています。



皆川城を築城した皆川秀宗の墓



皆川城の最後の城主となった皆川広照の墓

これは金剛寺を開基・創建した、皆川秀宗の母の墓

[video](#)



皆川氏の菩提寺である金剛寺を開基・創建した、皆川秀宗の母の墓

